

## 国土交通大臣賞

### 東京ミッドタウン日比谷

三井不動産株式会社

#### 〔授賞理由〕

本業績は、三信ビルディング（築80年）と日比谷三井ビルディング（築50年）及びその間の区道を対象とした、民間企業主導による一体的な再開発事業である。構想段階より約15年を経て2018年3月にグランドオープンし、1年間で約2200万人の来訪者があり、賑わいの創出と継続が見られる。地域と行政の総意によって区道を広場へと転換したオープンスペースの創出、道路、広場と公開空地が一体整備された官民協働による新たな賑わいの核がつくられ、その空間を利用して1年間で150回ものイベントが実施されて賑わいが生み出されている。また、霞が関、虎ノ門・新橋、銀座、大手町・丸の内の中心地域として、これらの特徴あるエリアを面的につなげる役割を果たし、その魅力を向上させ、新たな東京の核となる空間を創出している。

一般的に投資採算性のみを考慮するとおのおの単独建替え事業となるところを、10数年の歳月をかけて周辺の権利者との話し合い、合意形成の過程での広場や歩行者専用道のあり方、歩きやすくエンターテイメント活動の支援がしやすい空間づくり、エリアマネジメントの考え方などさまざまな意見を採用し、エリア全体が一体となったまちの将来像を共有し、開発が進められてきたことは、今後の都市開発における指針となるものであり、特に民間企業の主導によって成し遂げられた意義は大きい。

商業的な賑わいととどまらず、エリアマネジメントの実施、大規模災害時の被災者（帰宅困難者）の受け入れ準備など今日的な課題への対策も十分に練られている。

よって、本業績は、当学会の業績賞に相応しいと認められる。